

県連ニュース

2019年 2月号 NO-499



滋賀県勤労者山岳連盟

2019年 2月号

目 次

寄稿	エッセイ	2
案内	『速報』第43回 定期総会のお知らせ	3
	スキーネット『雪崩事故を防ぐための講習会』	4
	第40回 近畿ブロック搬出技術講習会	5
	京都府連 積雪期搬出技術講習会	7
報告	第11回 理事会議事録	
	雪山基礎講座(第1回)報告書	9
	ぐうたら理事長のつぶやき	13
予定表		14

表紙の写真 2019/01/03 撮影

『愛宕山神門』

滋賀山友会所属 北村 光雄さん提供

心に残る山行

友永 芳和

エッセイを依頼されましたので古い山行記録でお茶を濁します。

石堂山(樋口谷) 1979年4月9~10日

湯前に10時前到着。10時40分のバスで村所に向かった。12時40分の大河内行きは土砂崩れで鷹の元止まり。13時15分鷹の元着。パッキングを手直して13時20分に出発。大藪堰堤の先で大藪川に入り10分ほど歩くと樋口谷出合に着いた。装備を着け16時30分出発。大岩がゴロゴロしたゴーロを、右に左にルートを追う。15分くらいで7mの滝、更に15分でF1に出た。少し早いがビバークとする。

ポツカリと空中に浮かんだ月は、冴え冴えとした光を投げ掛けてくる。冷徹なほど澄み切った光だ。水量の多い滝の瀬音はゴウゴウと響くが静かだ。自然の大きな音の中の静けさ。ツェルトを被ると、澄んだ光がツェルトを透かして小さな体に降り注ぐ。

6時10分スタート。F1は左側から高巻く。最初は簡単に取付いたが、無理だったのでザックを置き空荷で登る。すぐ上に8mの滝と10mの滝に流れが分かれていた。真ん中を登ったが、途中の大岩で2mばかり落ちて右足を痛めた。その上は大きな岩のゴロゴロしたゴーロとなり、ルートの取り方が難しい。7mの滝を過ぎ15mの滝(A)に出た。ザックを置き右側を登る。半分くらい登って行き詰る。草付きの滑り易い壁。3mほどトラバースするのに自信が持てず、10分くらい逡巡した挙句、細い木の枝にビレイを取って思い切って足を伸ばしたら、何の事はない草付きの下に大きな木の根が隠れていて、絶好のホールドとなっていた。トラバースを終え



右側を登った15mの滝(A)



二股先のゴルジュ(B)

ザックとザイルを回収した。すぐ上に2段20mの滝が懸かっていた。これは高巻く。この二つの滝を越えるのに1時間を費やした。15mの滝を越えると二俣に着く。二俣よりゴルジュ(B)を抜けると広々とした河原になる。左へ大きく流れが曲がると、小滝を持つゴルジュとなった。腰まで浸かる渡渉で抜けて再び河原(C)となる。朝の光が水面をキラキラと輝かせている。気持ちしがスッキリする様な河原歩きで二俣に着く。少し行くと再びゴルジュ。腰まで浸かって進んだが、まだ深くなりそうだったので戻って高巻く。もう一度ゴルジュがあり河原となった。1105mの二俣は7mの滝が懸かり気持ち良くシャワークライム。だんだん水量も減り源流帯の様相となる。何度か小滝を越す。滑り易い沢床となれば突き上げも近い。まったくの藪漕ぎなしで樋口山への縦走路に出る。5分で石堂山の山頂に着く。



ゴルジュの先の河原(C)

まったくの藪漕ぎ無しで稜線に抜ける事ができた得難い沢登りだったので印象に残っています。(石堂山は宮崎県?の米良にある山です。)

速報

第43回 定期総会のお知らせ

議題：第43回 県連定期総会議案

日程：2019年3月10日（日）13：30～18：00
13：00開場（各会理事は12：30集合）

会場：滋賀県立スポーツ会館2階（昨年と同じ会場です）
滋賀県大津市御陵町4-1 TEL:077-522-0301

★JR 大津京駅 徒歩5分 ★京阪大津京駅 徒歩2分

★無料駐車場（22台）あり



代議員数は各会員数により下記の通りとなります。

【会員数】	【代議員数】
10名まで	2名
11名～20名	3名
21名～50名	4名
51名～100名	5名
101名以上	6名

★各会におかれましては、代議員選出等ご準備方をお願いいたします。

雪崩事故を防ぐための講習会

下記要領で講習会を実施します、スキー場トップより「大日ヶ岳」までシール登行し、講習終了後山頂からの滑降を楽しみます。山行には持つては行くが使用する機会の少ない器具。ビーコン、ゾンデ棒、雪スコップなどの操作、使い方など学習し、使い方に慣れ親しみたいと計画しました、関係各位殿のご参加をお待ちしております、講習終了後は大日ヶ岳 山頂からの滑降を楽しみたい！

日時：2019年3月2日(土) 場所：大日ヶ岳周辺

集合場所・時間：米原市中央公民館駐車場・午前6:00

申込先:谷内資康 村田啓二 Eメールにて連名で2月23日までに申し込みください。

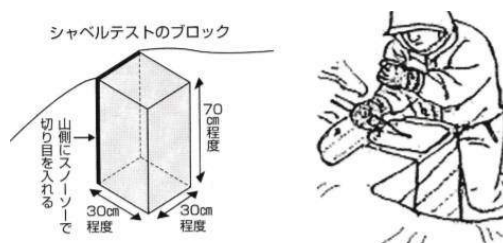
谷内:tomo-hira3rose@iris.eonet.ne.jp 村田:k-hiyake@hera.eonet.ne.jp

弱層テスト

1. 円柱テスト:行動中短時間で行うことができる

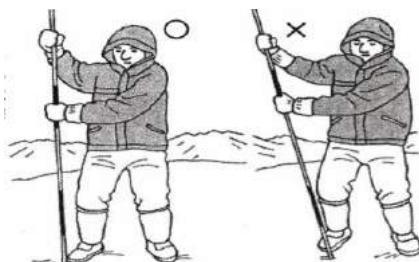


2. ショベルコンプレッションテスト:新雪層の弱層を調べることができる。



プローブの操作:

(ゾンデ棒)しっかりと握って真っ直ぐに刺す



ビーコン操作:予備のビーコンを雪面に埋め搜索する

第40回 近畿ブロック搬出技術講習会のご案内

尾根搬出、岩搬出、岩のセルフレスキュー【事前申し込み制】

●日時 2019年4月7日(日) 8:00 受付開始 8:30~15:30 雨天決行、警報発令中止

●場所 百丈岩やぐらおよび百丈岩周辺 (JR道場駅より徒歩約30分)

●内容 引き上げ引き下ろしシステムのレスキュー、背負い方法等のレスキューシステムを実践で学ぶ。

●コース

・尾根コース・岩コース (初級者・経験者コース)

・岩セルフレスキューコース

いずれのコースも事前受付となります。 (岩セルフレスキューコースは先着10人です)

●装備

・尾根コース：ヘルメット*、ハーネス*、自己確保用装備*、安全環付カラビナ*、スリング*、デイジーチェーン又はパス、確保器、カラビナ等

・岩コース・岩セルフレスキューコース

ヘルメット*、ハーネス*、自己確保用装備*、確保器*、安全環付カラビナ*、デイジーチェーン又はパス*、カラビナ*、クイックドロワー*、スリング*、アブミ、ハンマー等

*は必須装備です 上記の他、各コースとも一般装備 (行動食、水筒、雨具等) 必要

●対象者

・岩登りの経験があり、搬出技術の向上を目指す方。

・「岩セルフレスキューコース」は搬出技術講習会の参加経験者で主に岩登りをされる方のみとします。

・新特別基金、又は、それに準じる山岳保険加入者。

●参加費 資料代300円

●申し込み方法

参加ご希望の方は所属会を通じて氏名・性別・希望コースを各府県連盟へ事前に連絡をお願いします。

各府県連盟は3月18日(月)までに近プロMLに報告をお願いします。

<特記事項>

●雨天決行です。当日の朝の7時30分時点で警報発令時は中止します。

●訓練中の事故等に対しては自己責任での安全確保をお願いいたします。各コースともヘルメットのない方は参加できません。

●前夜泊は鎌倉峡河原にてテント泊可能です。(場所に限りがあります)

●お車でお越しの方へ

・当日はたくさんの参加者が予想されます。出来るだけ公共交通機関をご利用下さ

い。車の場合は、道場駅前の駐車場もしくは鎌倉茶屋管理の奥の駐車場（いずれも有料）をご利用下さい。

- ・道場駅からやぐら前まで路肩は駐車禁止とします。
- ・百丈岩やぐら前は講習会場として使用しますので駐車できません。
- ・夜間遅くに来られる方は、近隣住民の方へのご配慮をお願いします。

ハイキングコース

- 日時 2019年4月7日（日）9：30 受付開始 9：50～15：30 雨天決行
- 集合・会場 和歌山市北コミュニティセンター（JR 阪和線 六十谷駅より東へ徒歩 25 分）

和歌山市直川 326-7 和歌山さんさんセンター紀の川内 TEL:073-464-3031

- 持ち物 山行時の装備一式
（食食、水筒、雨具、ストック、三角巾、スリング<120cm・60～100cm>、カラビナ等）
- 内容 応急手当、搬出技術
- 対象者 ハイキングの山行リーダー及びハイキングでのレスキュー技術の習得を目指す方。
- 参加費 資料代 300 円

<特記事項>

- 講習中の事故等に対しては自己責任でお願いいたします。
- 軽登山靴、または運動靴で参加可能です。
- 参加を希望される方は事前に所属会を通じて氏名・性別を各府県連盟へ連絡をお願いします。

各府県連盟は3月18日（月）までに近プロMLで和歌山県連へ報告をお願いします。



京都府連救助隊 積雪期搬出訓練の案内

実施日：2019年2月3日（日） 降雪雨天決行

対象者：雪山ハイキングや雪山縦走に参加されている方

受付：イン谷ロトイレ前広場 8時30分 開始; 9:00 15:00 反省会後解散

場所：正面谷周辺

内容：ビーコン、プローブ 訓練、負傷者の梱包、引き上げ引き下ろし

持ち物：積雪期の日帰り個人装備 ビーコン、スコップ、プローブ、ヘルメット、ハーネス、等必要な登攀用具（原則、アイゼンは使いません）

ビーコンやプローブ、スコップ、ハーネス、登攀装備を持っていなくても、参加可能です。
（ビーコン、プローブ訓練の時は見学だけでも勉強になります。登攀装備がなくてもメットがあれば負傷者搬送のお手伝いはできます）

締め切り：2018年1月31日（木）

参加希望の方は友永まで連絡してください。

電話番号 077-524-5618 メール yt19481013@yahoo.co.jp です。

2018年度 第11回理事会 議事録

2019.1.10(木) 19:00～20:25 於; 県連事務所

出席 ; 北村、友永、濱、中島、高玉、古川、東郷、今村、池田

欠席 ; (連絡あり) 秋田、奥野、三崎、川端、宮内、番浦

下記の議題につき、提案・協議・検討・決定をした。

1 清掃登山 担当: 自然保護部(中島／古川)

下記のスケジュールと内容の提案があり確認した。

- ・3月中旬 自治体(11) その他協力団体(9)に協力依頼。
岩と雪及び好日山荘に広告依頼。
下旬 各会コース等決定依頼
- ・4月中旬 自治体(11) その他協力団体(9)に協力依頼。
チラシ原稿の作成、印刷発注
下旬 チラシを自治体、関係団体、県連各会に送付。

- ・5月上旬 しおり、リーダーの手引きの内容を各会に確認。
中旬 しおり、リーダーの手引き原稿作成、印刷、発送。
- ・6月上旬 報告文、写真のまとめ
中旬 会計報告書作成
自治体、協力団体に報告書の送付。

2 各部報告

組織部：会員数動向(前年度末比:210/214 98.1%)

山友	岳友	雪稜	彷徨	ちごゆり	シャクナゲ
77/77	55/55	45/45	11/11	17/16	5/5
合計 2018.12E/2018.11E					
210/209		100.4%			

教育部：なし 遭難対策部：なし

自然保護部：

- ・1月18日に近畿ブロック自然保護委員会が開催される。

機関紙部：

- ・県連ニュース2月号(第499号)は原稿締切り 1/15、1/21印刷・発送。
表紙写真は宮内氏。エッセイについては高田氏の代わりに友永理事長が書くことで確認した。

財政部：

- ・財政については1月末が締めである。2月4日に会計監査。

救助隊：

- ・装備の点検を1月24日(木)の16時30分より行う。

その他

- ・会長人事の件 代表者会議(2月7日)の議題とする。
- ・近畿ブロック雪崩講習会(ビーコン・理論・実技)参加者については申込希望なし。
- ・近畿ブロック代表者会 1/16 19時30分～大阪府連事務所
友永理事長が出席予定。
- ・京都府連救助隊搬出訓練 2/3 正面谷周辺、8時30分イン谷口トイレ前広場集合。
対象 雪山ハイクや雪山縦走に参加されている方。
- ・全国連盟評議会 2/16～17 東京都府中市ホテルコンチネンタル 友永理事長が出席予定。

3 総会議案書検討(協議)

総会までのスケジュールと任務分担を確認した後、「2018年度のまとめ」と「2019年度活動計画(案)」について各部会より出しあって議論した。議論の結果について訂正する箇所については北村事務局長に次回の理事会までに送信することで確認した。

次回第12回理事会 1月24日(木)19:00～

雪山基礎講座(第1回)報告

八ヶ岳南部 硫黄岳

森原利光／湖南岳友会

日程：2018年12月14日(金)～16日(日)

参加者：講師 秋田(彷徨倶楽部)

受講生 山中、山川、高岡、森原(以上、湖南岳友会)、川口(滋賀山友会)

タイム：

12/14

JR守山駅(20:00)＝(名神・中央高速)＝諏訪南IC＝JR信濃境駅24:30(仮眠)

12/15 快晴

信濃境駅6:00＝美濃戸7:00～7:20＝赤岳鉱泉10:00～11:30(テント設営)＝赤岩の頭

12:45～13:00＝硫黄岳13:30～13:35＝赤岳鉱泉15:25(テント泊)

硫黄岳登頂後、赤岩の頭付近で耐風訓練実施

12/16 晴

赤岳鉱泉11:40＝美濃戸13:40＝帰滋 鉱泉付近で雪山基礎訓練実施

今年で雪山基礎講座は3年度目となる。2019年度実技講習第1回の今回は、各会のイベントなどと日程が重なったため、参加者は12名の受講生の内4名のみと少な目になった。美濃戸口からの悪路も圧雪されており、4駆SUV車2台で楽に美濃戸に着くことができた。歩きに比べて1時間の短縮である。

美濃戸から林道を1時間歩き登山道に入る。赤岳鉱泉までは新雪が5～6cm積った圧雪の道だったので滑る恐れがなく、アイゼンは装着せず



赤岳鉱泉



硫黄岳目指し樹氷の中

登った。テント場となる赤岳鉱泉に到着すると、大同心が目の前に迎えてくれた。赤岳鉱泉の冬の風物詩である人工の氷壁(アイスキャンディーと呼ばれている)は完成前で、3面のうち1面だけが使用可能だった。3名のクライマーがアイスクライミングを楽しんでいた。テント泊慣れしたメンバーにより8テンを手際よく張り終え、雪上歩行訓練のため硫黄岳に向かった。積雪は5～6センチ程度であるも気温が低く圧雪された登山道は、雪と岩のミックスでアイゼン歩行の良い訓練となった。

赤岩の頭までは樹林帯が続いた。頭上には八ヶ岳ブルーが広がり、樹氷とのコントラストが最高に綺麗であった。樹林帯を抜け赤岩の頭に到着すると、展望が大きくひらけ硫黄岳、横岳、大同心、赤岳、阿弥陀岳がパノラマとなって眼前に姿を現した。南に南アルプス、西には中央アルプ



硫黄岳へ

ス、御嶽山、北西に北アルプスの展望が素晴らしかった。

赤岩の頭で休憩した後、受講生だけで硫黄岳まで往復した。硫黄岳山頂は風がきつく、写真撮影をしてさっさと赤岩の頭まで戻った。赤岩の頭で耐風姿勢の訓練を行った。登り、下りを想定しながら笛の合図で耐風姿勢をとった。両足とピッケルの石突きで雪面に3角形を作り、体勢を低くすることで強風に耐えることができる。

テント場に戻り夕食。野菜と肉たっぷりの鍋でお腹は一杯となり、恒例の自己紹介で盛りあがった。20時就寝。

12/16 6:00 起床、朝食はチーズのリゾット、カレー飯。朝食後ロープワークなどの基礎訓練（内容後述）を実施。11:30にテント撤収して13:30に美濃戸に下山した。

2019年度の雪山基礎講座は、硫黄岳から始まり5月まで計7回予定されている。最終講座は、雪山総合として「北アルプス爺ヶ岳東尾根～鹿島槍ヶ岳」であるが、この山行はこれまで2回の講座でも計画されたがいずれも悪天のため変更となった経緯があるので今年こそは登ってみたい。雪山の基礎を学び魅力溢れる雪山を安全に楽しみたい。



赤岳、横岳を望みながら下山

〔訓練内容〕

1.1. 雪上歩行訓練

雪山ではバランスを崩さないで歩くことが最も重要である。下りでアイゼンをスパッツなどに引っかけて転倒する事故が多い。疲労が蓄積し集中力が欠けがちな午後の歩行では事故が多発しているため、特に足さばきに十分な注意が必要である。ガニ股歩きはアイゼン後爪でスパッツを引っ掛け易くなるので注意しなければならない。

ブレードを前にピッケルを保持すると転倒時に滑落停止体勢に入りやすい。ピックを前に持ち雪面に打ち込むことで、ピッケルを積極的にホールドとして利用することができる。



ロープワーク訓練

2. 雪山で重要なロープの結び方

1) フィギュアエイトノットオンアバイト

フィギュアエイトノットは最も重要。結び目が大きいことから、強い衝撃が加わった

後でも解き易い。ロックカラビナと併用することで素早くアンザイレンすることができる。岩登りの場合はフィギュアエイトノット・フォロースルーを使う。ロープの結び方を反復練習して身体で覚えることが必要。

2) バタフライノット

ロックカラビナと併用してロープの中間者に用いる。前後どちらに荷重が架かっても結び目が締まるので安全。

3) カラビナバッチマン

メインロープにスリングを巻きつけてカラビナを固定するフリクションヒッチの一種。スリングに荷重が架かればロックし、荷重が架かっていない状態ではカラビナを上下にスライドさせることができる。プルージックヒッチと同様に使うことができるが、カラビナを持って容易にスライドすることができるので、雪山やロープが濡れている場合など操作性が格段に優れる。

3. 懸垂下降

懸垂下降する際、ハーネスから 20cm 程度伸ばしたスリングに支点を作ると上体が安定する。特に、重いザックを背負っている場合は考慮すべきである（肩絡みは除く）。

1) 肩絡み

ロープを身体の前から肩に巻きつけて懸垂下降する。古典的な方法であるが、下降器やカラビナ等が無くても懸垂下降ができるので覚えておかなくてはならない技術である。下降時に肩に回したロープが首筋を擦るので、襟のある服装でないと火傷するおそれがあるので注意。

2) ムンターヒッチ

カラビナのみで懸垂下降ができる。肩絡みと異なり身体にロープを回さないで火傷の心配がない。ムンターヒッチ専用に考案された HMS 型カラビナを使うことが望ましい。

4. 固定ロープの支点通過

雪山では危険箇所にはロープを固定して安全を確保した上で通過するケースが多々ある。この場合に固定ロープの途中に設けられた支点を通過する際、2本のスリングまたはラビットノットを利用して確実に自己確保する方法を練習した。

5. 滑落停止

訓練ができるクラストした斜面が無かったため、平らな雪上で停止姿勢に移る動作を確認した。仰向けになり、合図とともに反時計回り（右利きの場合）に身体を半転させ体重を利用してピックを雪面に打ち込む。肩甲骨付近にブレードが当たりピックに十分体重が架かるようにする。反転と同時に膝から下を上げ、アイゼンが雪面に引っ掛かって身体が回転しないようにする。ピッケルによる滑落停止は最後の手段で、滑落を止められる保証はない。転倒しないこと、滑落が始まる前に体勢を立て直すことが最も重要である。（転倒要因：アイゼンを引っ掛けたり、強風や地形の変化でバランスを崩す。）

〔一口感想〕

◆ 快晴の八ヶ岳／硫黄岳で、2日間、雪山の基礎技術となる「アイゼン&ピッケルワーク」、「滑落停止」、「耐風姿勢」、「雪山に必要なロープ操作」などを学びました。ただ、「ロープ操作」が難しく、なかなか覚えられない。何回教えて頂いても覚えられ

ない。今年は、ロープ操作をマスターできるようにロープを購入して、日々訓練したいと思っています。また、今シーズン開催される「雪山基礎講座 2019」に参加して、雪山基礎となる動作を理解・実践しながら、雪山にチャレンジしていきたいと考えています。
(山中)

◆ 登山を始めて3シーズン目の冬山、今年はまだ雪が少ないですが八ヶ岳の冷え込みは厳しいです。初日は赤岳鉱泉で幕営後、硫黄岳へアタック。稜線から山頂はパノラマビュー、最高でした。2日目はロープワークや滑落停止などの訓練、昨年も受講しましたが忘れていたこともあり参加して良かったです。これからシーズン本番になりますが学んだことを活かして雪山を安全に楽しみたいです。(山川)

◆ 私にとって雪山登山は程遠いものだと思っていましたが、今回機会があり参加させてもらいました。感想としては率直に楽しかったです。本格的な雪山は初めてで、行く前から期待と不安が入り混じっていました。まず、準備段階から初心者にありがちなあれもこれも になってしまい荷物は多くなるし、寒さに耐えられるのか？ アイゼン歩行は大丈夫か？ そもそも20kg近い荷物を背負って雪山を歩く体力はあるのか？ 数えたらきりがありませんでした。え〜い！案ずるより産むが易し！！とはなりませんでしたが、そこそこ形にはなったのではないかと思います。今回の山行で大体の感じは掴めましたので、第二回、第三回と出来るだけ参加して雪山に必要なスキルを身に着けたいと思います。お世話になった皆さんありがとうございました、今後もアドバイスよろしく願います。(川口)

◆ 2019年度CSS雪山基礎講座が始まった。2018年度で初めてCSSに申込み、1回目は娘の成人式と重なり断念。今期こそはと1回目のカリキュラムを強く参加希望した。しかしながら雪量が少なく山行も危ぶまれましたが、弱層テストやビーコン訓練は無いもののアイゼン・ロープワーク、ピッケルの使用方法、耐風姿勢・滑落停止訓練の実習が出来た。初日の朝は美濃戸駐車場で-12度の表示にビックリでしたが2日間とも好天に恵まれ、朝方の冷え込みが厳しかったですが、全てにおいて新しいメンバーも加わったことで楽しい山行になりました。反省点は連日の寝不足が続き、足が攣ったことを反省し、今後は体調管理に気を付けたいと思います。(高岡)

◆ 雪山の基本は変化する雪面に対応して歩くことです。これは実際に雪山を歩かないことには身につけません。滋賀県内ではシーズン始めの歩行訓練に適切な山がないので、今回は思い切って八ヶ岳まで足を伸ばしました。硫黄岳の往復で、今回の主目的であるアイゼン歩行に関して十分な成果が得られたのではないのでしょうか。ロープの結び方などについては今後も繰り返し講習しますのでぜひ身に付けてください。(秋田)

ぐうたら理事長のつぶやき

総会が近づいてきました。まだまだ十分な活動はできていませんが、皆様のご協力でなんとか1年の活動ができました。ありがとうございます。

来年度の活動も目新しい事は出来ないと思いますが、総会では皆様からご意見をいただいて、今年以上に充実した活動ができればと思います。総会ではぜひ大きな波風？を立てていただき活発な議論をしていただければ嬉しく思います。よろしく願います。

以前も書いたと思うのですが、本を整理する前に読み返しています。今は「中野孝次」さんの書かれた『うちなる山々』を読んでいます。その初めのほうにこんな事が書かれていました。「そこに山がある、だから登るのだ、という言葉は、いまでは有名になりすぎたが、ひとは山があるからといってだれもがそこに登りたいという衝動に駆られるわけではない。大多数の人間は生涯平地暮らしをしていて痛痒を感じないのである。とすれば、山でも海でも極地でもいいが、荒々しい剥き出しの自然へと人を駆り立てるものは、外部ではなく、その人間自身の内に潜むデーモンの如きものではあるまいか。

山がある。そして世の中には、山に登る人間と、登らないでいられる人間とがいる。どうやら人間には、剥き出しの荒々しい自然の中で自分を確認せずにいられぬ衝動を持った人種と、都会の複雑な人間関係のなかで泳いでいるほうが快適な人種と二種類あるということかも知れぬ。・・・。」

皆さんはどんな内なる衝動に導かれて山に登っているのでしょうか？ 下界での煩わしい人間関係から逃れて、ひと時山頂から下界を見下ろして安らぎを得ているのでしょうか。

引力に逆らって重い荷物を背負って、汗を流しながら山に登る事にどんな意味があるのでしょうか。そんな事を考えてみるのもいい機会かなと思っています。

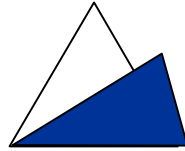
行事予定

月	日	県連・全国行事	月	日	各会の行事	会名
2			2	3	湖東・猪子山	山友
				3	綿向山	岳友
	3	京都府連 救助隊 積雪期搬出講習会		3	黒山・岩尾山	雪稜
				3	清滝山	ちご
	7	代表者会、第13回理事会		9-10	雪中テント泊八雲ヶ原	雪稜
	9-11	妙高山スキー・ゲレンデスキー(スキーネット)		9-11	明神平	岳友
	15-17	CSS/雪山基礎講座2019 (奥美濃・大日ヶ岳、天狗山)		10	野洲・希望ヶ丘文化公園、探鳥会	山友
	16-17	全国連盟評議会		16	ダイヤモンドトレイル(行者峠～岩湧山)	彷徨
				17	第40回定期総会	雪稜
				17	岩籠山(敦賀)	岳友
3	1-3	CSS/雪山基礎講座2019 (奥美濃・土蔵岳～猫ヶ洞)	3	2-3	野伏岳	岳友
	2	雪崩講習会 大日ヶ岳(スキーネット)		10	虎子山	雪稜
	7	第14回理事会		10	花見(梅)山行	ちご
	10	県連総会、第1回理事会		14	ミーティング	彷徨
				16	音羽山、地図読み山行	山友
				17	鈴鹿・油日岳	山友
				17	霊仙山	岳友
				17	紀見峠～金剛山(ダイトレ)	雪稜
				17	ダイヤモンドトレイル(岩湧山～滝畑ダム)	彷徨
				21	伊吹山地・上谷山	山友
4			4	24	鈴鹿・竜ヶ岳～静ヶ岳	山友
				24	総会、ミーティング	岳友
	23-24	野沢温泉山スキー(スキーネット)				
	29-31	CSS/雪山基礎講座2019 (中ア・越百山)		30	鈴鹿・油日岳～那須ヶ原山	山友
				31	能登ヶ峰	雪稜
				31	山の辺の道(三輪)	ちご
4			4	7	吉野山	岳友
				7	鶴翼山・蓬萊山(沖島)	雪稜
				7	お花見山行(天ヶ瀬ダム)	ちご
	12-14	CSS/雪山基礎講座2019 (北ア・唐松岳)				
	13-14	小日向山・五竜遠見山スキー(スキーネット)		14	総会	山友
				14	呉枯ノ峰・天吉寺山	雪稜
	20	金毘羅岩トレ(CSS)		18	ミーティング	彷徨
				20	ミーティング	岳友
				20	箱館山	ちご
		21	伊吹山 北尾根	岳友		
27-5/1	八甲田山山スキー(スキーネット)					
			28	公開野点山行(場所未定)	雪稜	

会名略号 山友:滋賀山友会、岳友:湖南岳友会、雪稜:比良雪稜会、ちご:ちごゆり山歩会

シャク:シャクナゲ溯行クラブ、彷徨:彷徨倶楽部

スキーネット;山スキーネット滋賀、CSS:クライミング研究会滋賀



原稿の投稿先(3月号は2019年2月15日〆切)
メールアドレス okunoyutaka@yahoo.co.jp まで
原稿は **B5** サイズ、フォント **10.5~12** で、使用する写真は
200KB 以内としてください。皆様のご協力をお願いいたします。

「県連ニュース2月号」 No.499

発行日:2019年1月21日

滋賀県勤労者山岳連盟

TEL 080-4971-6231

〒520-0836

Email shigarosan@gmail.com

大津市杉浦町 9-30

ゆうちょ銀行(店名 418)

<http://shigarosan.jimodo.com/>

普通 0239956

発行責任者 友永芳和

編集委員 奥野 豊 高玉 敬子 東郷 京子